



# 仙波糖化工業株式会社

証券コード：2916

## 2026年3月期 第2四半期決算説明会

2025年11月28日

# 目次

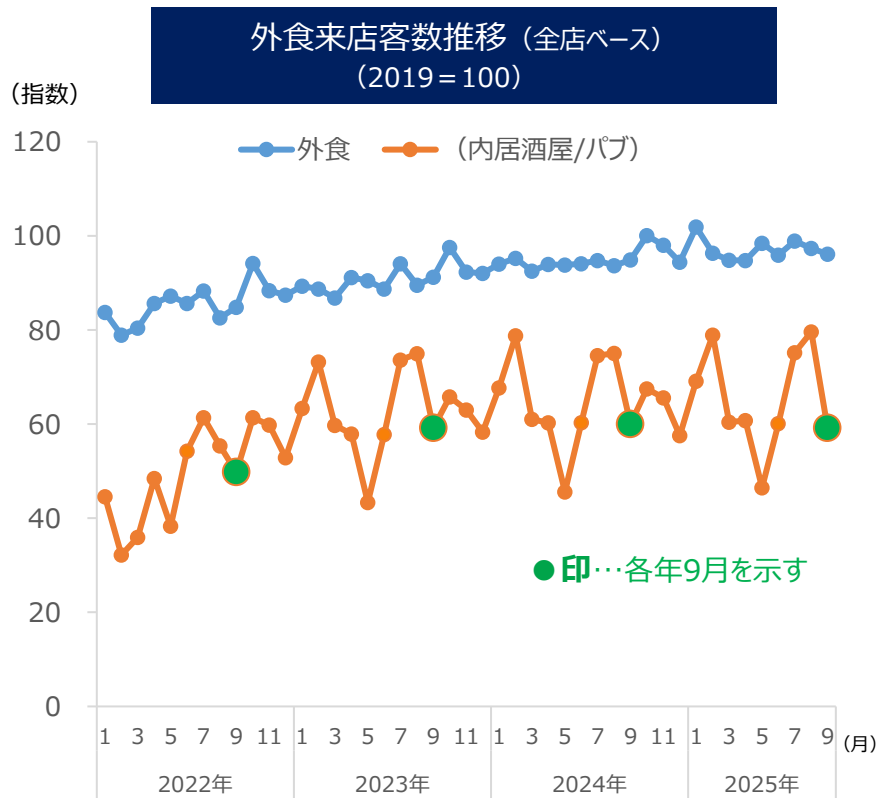
---

I	2026/3期 第2四半期の決算概況	P 2
II	重点施策の進捗状況	P15
III	2026/3期の業績予想	P23
	参考資料	P27

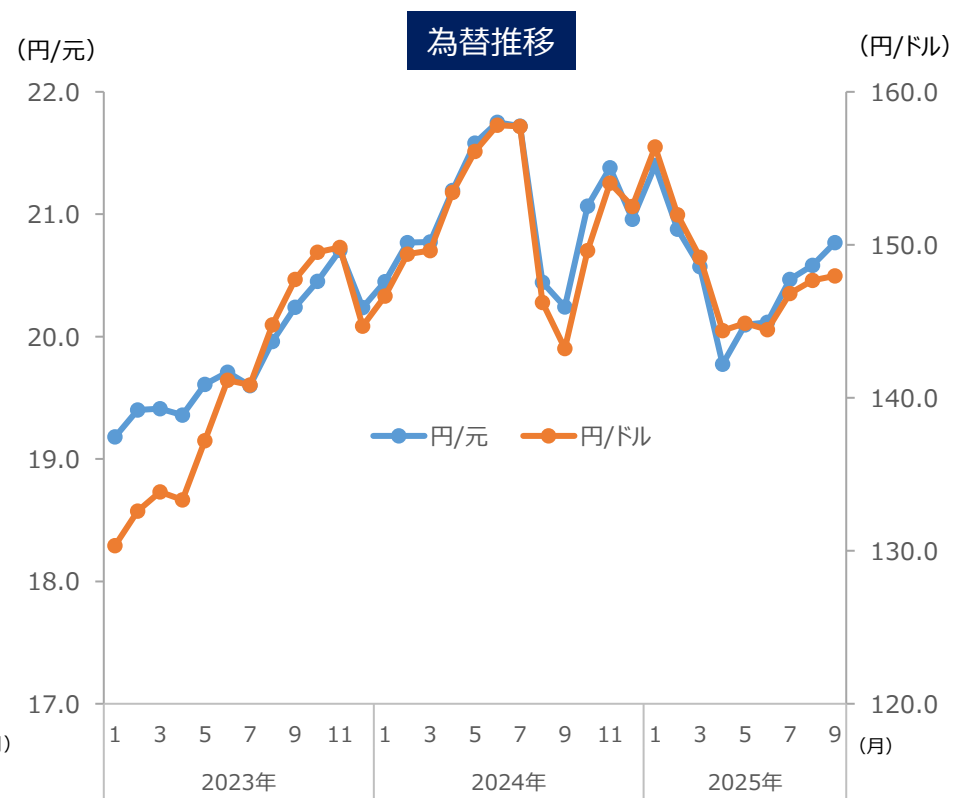
# I 2026/3期 第2四半期の決算概況

外食来店客数は、新型コロナ禍以前の95%程度まで回復しているが、居酒屋/パブの回復はやや頭打ち

米国関税措置の確定以降は対ドルで円安に推移  
人民元は中国政府の為替政策転換で元高にシフト



(出所) 日本フランチャイズチェーン協会、日本フードサービス協会



(出所) 日本経済新聞

# 決算概要

【2026/3期 上期】

- ✓売上高は、冷凍山芋の新製品効果とスポーツサプリ商材の回復などで3.6%の増収  
(中国龍和食品連結除外の影響額を控除した事業継承ベースでは、6.1%の増収)
- ✓営業利益は、自社商材の粉末茶や粉末調味料等の乾燥製品類が伸長し、40.7%の増益
- ✓経常利益は、為替差損の計上により、32.6%の減益

(単位：百万円、円)

	2025/3上期		2026/3上期			
	金額	前同比	金額	前同比	期初予想	予想比
売上高	9,257	▲2.0%	9,594	+3.6%	9,600	▲0.1%
営業利益	299	+15.3%	421	+40.7%	300	+40.4%
経常利益	405	+4.9%	272	▲32.6%	300	▲9.0%
親会社株主に帰属する 中間純利益	261	▲13.9%	164	▲37.1%	200	▲17.6%
1株純利益	22.98	-	14.45	-	17.57	▲3.12
設備投資額	253	▲152	272	+19		
減価償却費	416	▲34	379	▲37		
研究開発費	142	+16	159	+16		

(注) 中国龍和食品は、前期2Q以降持分法適用会社

# 製品区分別売上実績

【2026/3期 上期】

- ✓カaramel製品は、一般食品用で反動減も、海外の着色用需要を取り込む
- ✓乾燥製品類は、粉末茶や粉末調味料類（醤油、味噌等）が好調
- ✓組立製品類は、ヘルスケア商材受託の一部が回復
- ✓冷凍製品は、海外の冷凍デザート消失分を、冷凍山芋の販売増でカバー

（単位：百万円）

	2025/3上期		2026/3上期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	9,257	100.0%	9,594	100.0%	+336	+3.6%
カaramel製品	2,222	24.0%	2,199	22.9%	▲23	▲1.0%
乾燥製品類	3,369	36.4%	3,511	36.6%	+141	+4.2%
組立製品類	1,502	16.2%	1,619	16.9%	+117	+7.8%
冷凍製品	1,632	17.7%	1,664	17.4%	+32	+2.0%
その他	529	5.7%	598	6.2%	+69	+13.1%
自社商材	6,624	71.6%	6,951	72.5%	+327	+4.9%
受託商材	2,633	28.4%	2,643	27.5%	+10	+0.4%
海外売上高	419	4.5%	217	2.3%	▲202	▲48.2%

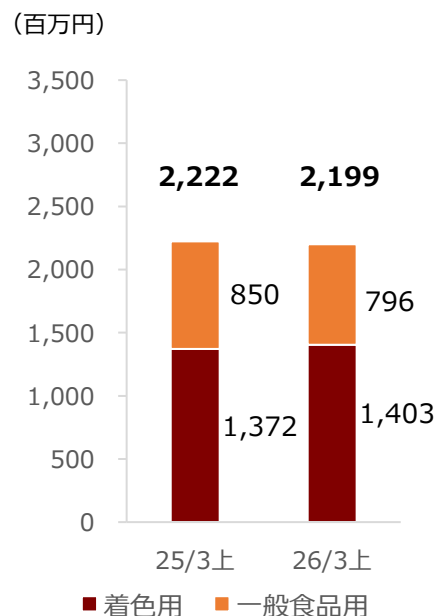
（為替レート）

円/元	21.05	20.47	▲0.58	▲2.8%
円/VND	0.006278	0.005895	▲0.000383	▲6.1%

# 製品区分別売上詳細

【2026/3期 上期】

## カaramel製品



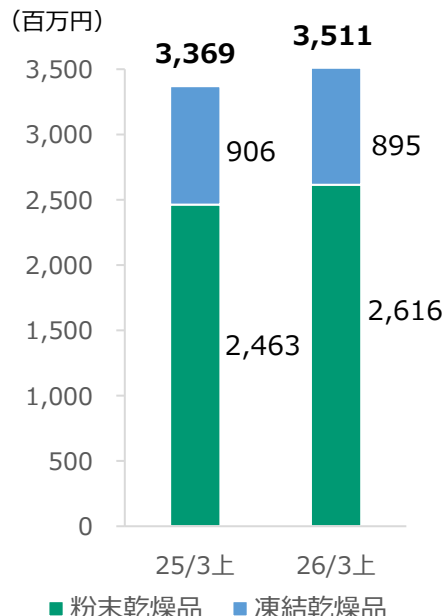
### 一般食品用

- ・プリン、アイスクリーム向けは堅調
- ・季節限定商品向けは反動減

### 着色用

- ・飲料向け需要が増加
- ・海外市場取り込み効果
- ・カレー向けは減少

## 乾燥製品類



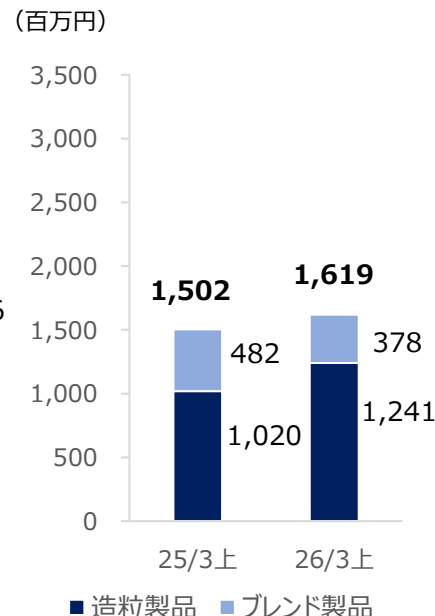
### 凍結乾燥製品

- ・乾燥野菜の受注は堅調だが、その他の具材が減少

### 粉末乾燥製品

- ・粉末醤油等の調味料類が増加
- ・給茶機向け粉末茶需要回復

## 組立製品類



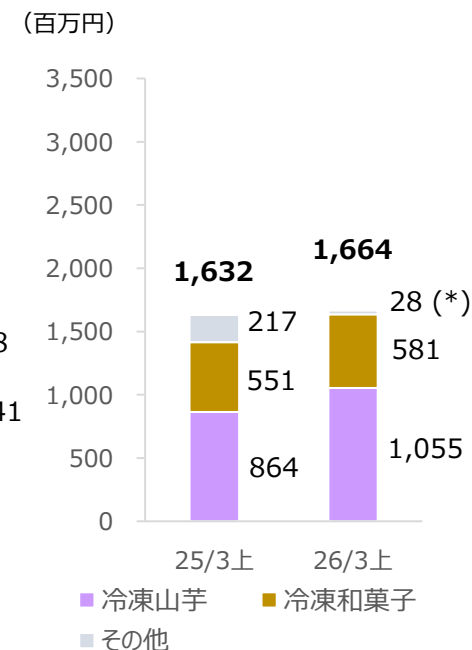
### ブレンド製品

- ・焼きそばソース向けは堅調も、調味料関連の受託商材減少

### 造粒製品

- ・スポーツサプリ受託の一部が回復

## 冷凍製品



### その他

- ・中国の冷凍デザート減少(\*)

### 冷凍和菓子

- ・どら焼き・ドームケーキ堅調

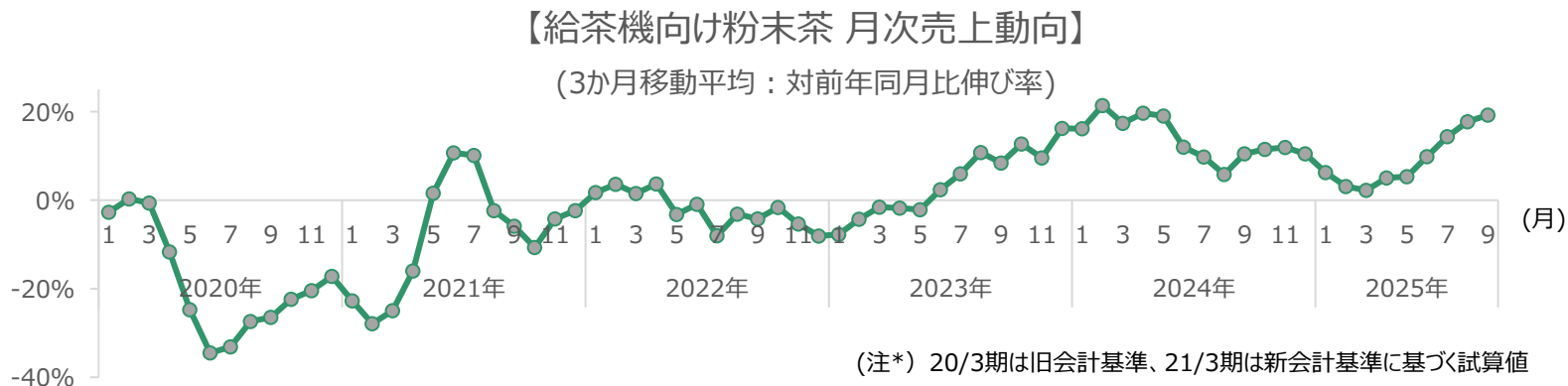
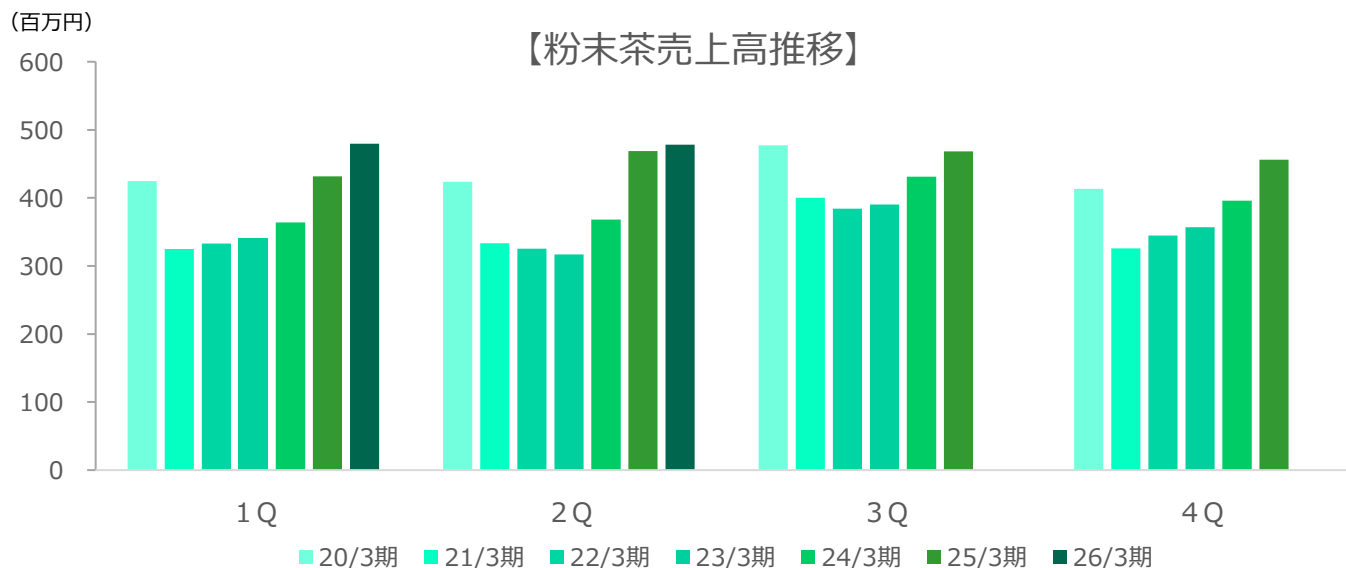
### 冷凍山芋

- ・外食・CVS向け需要が増加
- ・外食向け提案営業効果

(注\*) 龍和食品の連結除外の影響

## ①粉末茶

- ✓ 売上高は、給茶機向けがコロナ禍前の水準に回復し、右肩上がりも、足元では、世界的な抹茶ブームの影響で原料茶葉価格が急騰

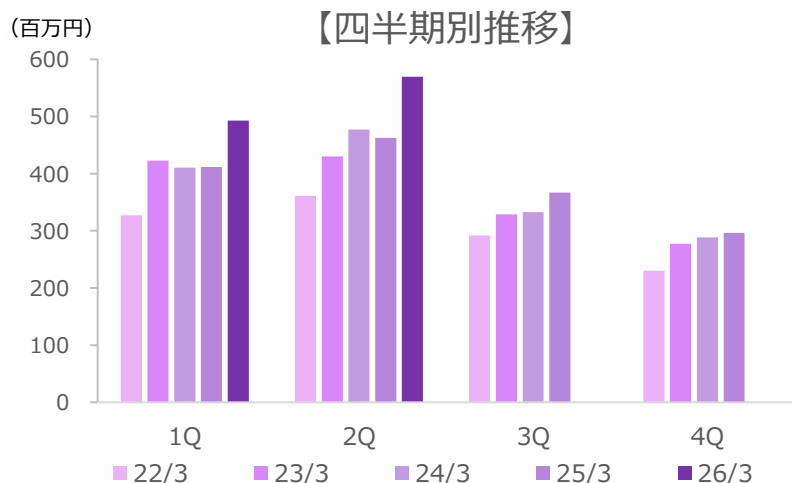




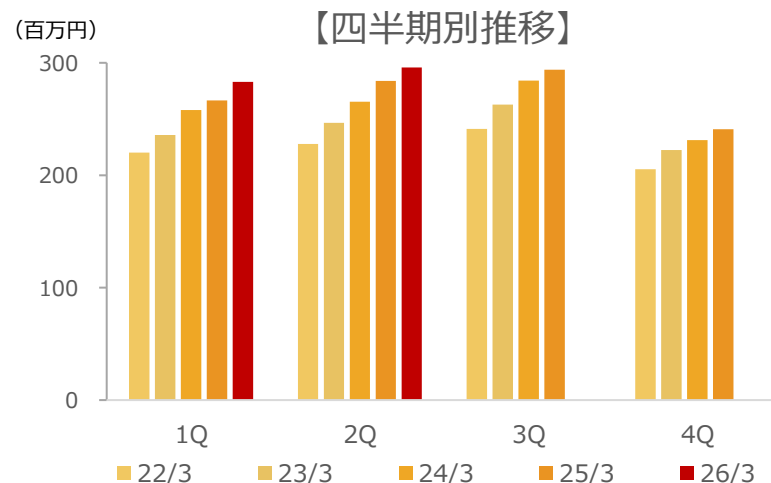
## ②冷凍製品

- ✓ 冷凍山芋は、天候要因や新製品投入効果でCVS及び外食向けが伸長
- ✓ 冷凍和菓子、伸び率縮小も、依然、増加基調で推移

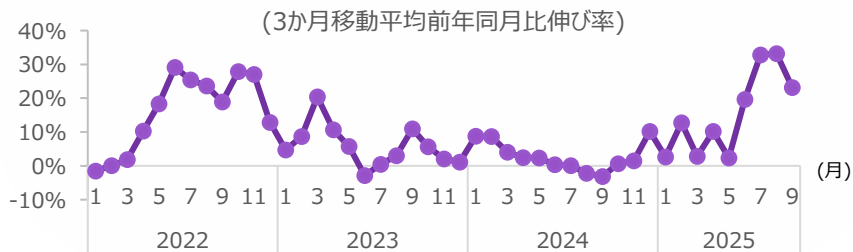
冷凍山芋売上高



冷凍和菓子売上高



【月次動向】

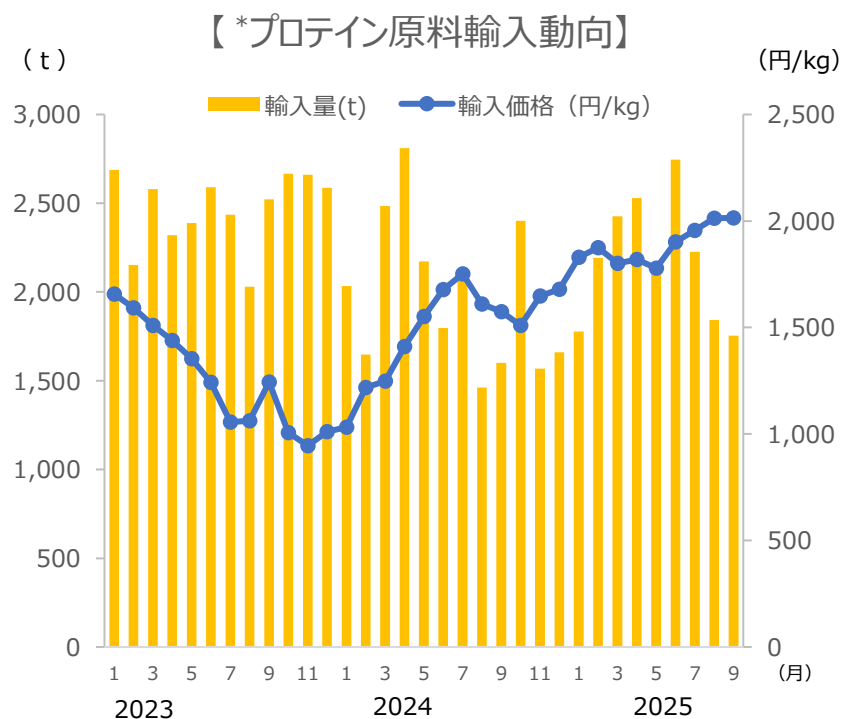
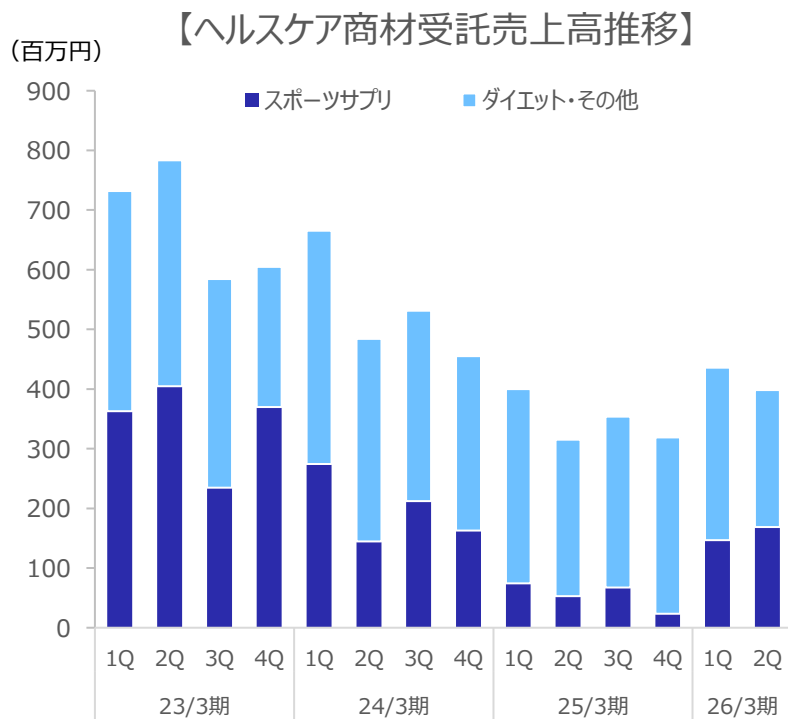


【月次動向】



## ③ヘルスケア商材受託

✓ プロテイン原料の輸入価格は、世界的な需要増加もあり高値続くが、スポーツサプリは回復傾向、ダイエット・その他は戻り鈍い



(\*)プロテイン原料：ミルクアルブミン（2以上のホエイたんぱく質の濃縮物を含む）

(出所) 財務省貿易統計

# 要約損益計算書

【2026/3期 上期】

- ✓原価率は、原材料費の増加を値上げ効果や販売数量増加により、0.4ポイント圧縮
- ✓営業利益率は、増収効果で販管費率が低下し、1.2ポイント向上

(単位：百万円)

	2025/3上期		2026/3上期			
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	構成比変化
売上高	9,257	100.0%	9,594	100.0%	+336	
売上原価	7,235	78.2%	7,459	77.8%	+223	▲0.4ポイント
売上総利益	2,021	21.8%	2,134	22.2%	+113	+0.4ポイント
販管費	1,721	18.6%	1,713	17.9%	▲8	▲0.7ポイント
営業利益	299	3.2%	421	4.4%	+121	+1.2ポイント
営業外損益	105	1.1%	▲148	▲1.5%	▲253	▲2.7ポイント
経常利益	405	4.4%	272	2.8%	▲132	▲1.5ポイント
特別損益	6	0.1%	-	-	▲6	▲0.1ポイント
税引前利益	411	4.4%	272	2.8%	▲138	▲1.6ポイント
親会社株主に帰属する 中間純利益	261	2.8%	164	1.7%	▲97	▲1.1ポイント

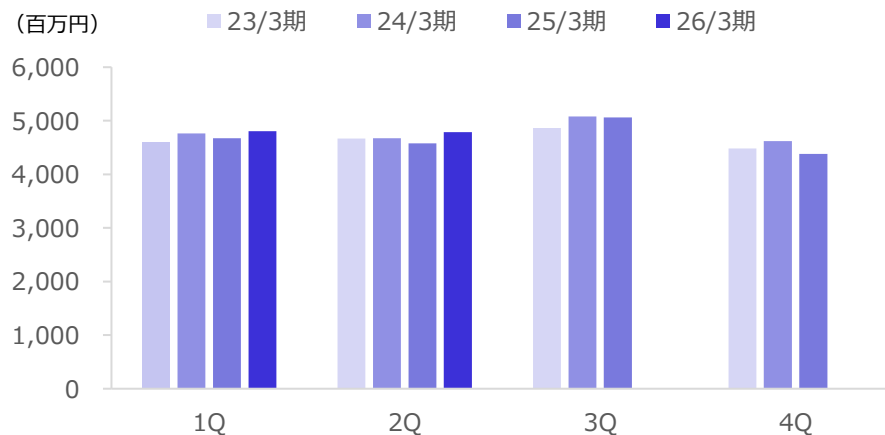
【営業外損益】 (百万円)

	25/3上	26/3上
営業外収益	158	→ 58
営業外費用	52	→ 207
(金融収支)	15	→ 21
(為替差損益)	99	→ ▲156

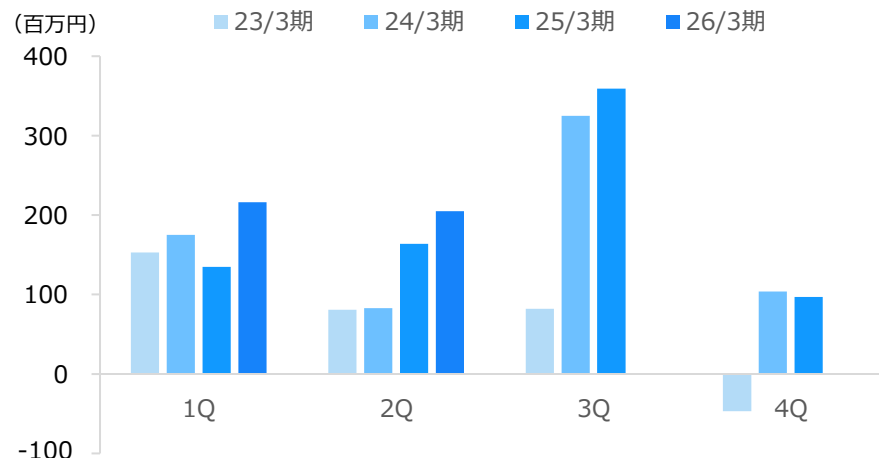
# 四半期業績推移

【2026/3期 上期】

【四半期売上高推移】



【四半期営業利益推移】

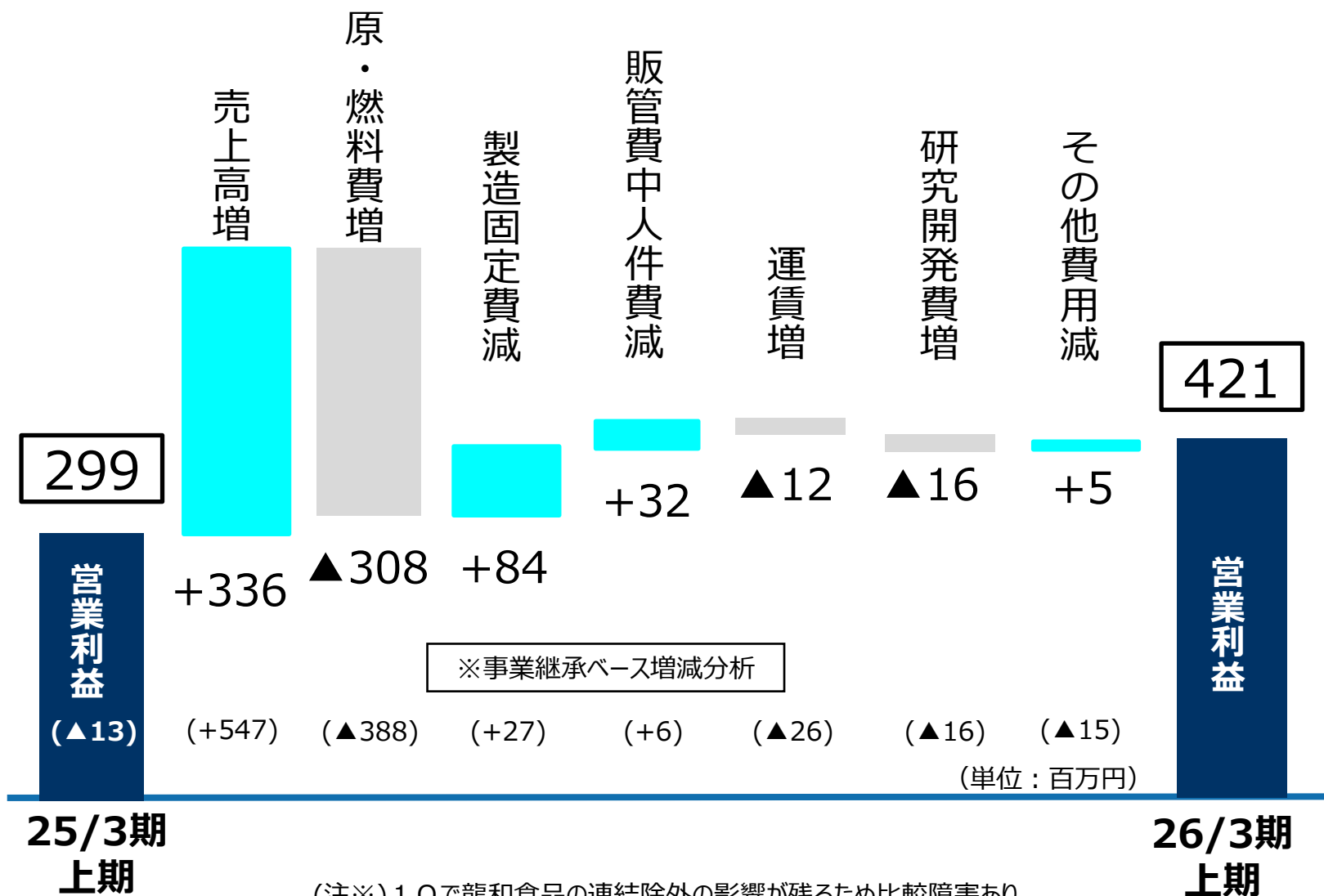


(単位：百万円)

	23/3期				24/3期				25/3期				26/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	4,603	4,669	4,868	4,479	4,765	4,677	5,077	4,617	4,677	4,580	5,062	4,381	4,804	4,789
カaramel製品	988	998	1,076	958	1,038	1,019	1,176	998	1,091	1,131	1,277	1,017	1,084	1,115
乾燥製品類	1,438	1,381	1,616	1,480	1,416	1,495	1,683	1,590	1,667	1,702	1,875	1,708	1,803	1,707
組立製品類	1,046	1,095	938	910	1,007	811	984	960	780	722	910	827	849	770
冷凍製品	845	923	906	851	1,035	1,054	895	796	871	761	672	549	787	877
その他	283	270	330	277	267	296	338	273	267	262	326	278	279	318
営業利益	153	81	82	▲46	175	84	325	105	135	164	359	96	216	205

# 営業利益増減分析

【2026/3期 上期】



(注※) 1 Qで龍和食品の連結除外の影響が残るため比較障害あり  
上表の( )内数値は事業継承ベースでの増減額

# 要約貸借対照表

【2026/3期 上期】

(単位：百万円)

	2025/3末	2025/9末	増減額
<b>流動資産</b>	<b>11,173</b>	<b>11,049</b>	<b>▲124</b>
現金及び預金	3,081	2,990	▲90
受取手形及び売掛金※	4,157	4,387	+230
棚卸資産	3,779	3,499	▲279
<b>固定資産</b>	<b>9,486</b>	<b>9,710</b>	<b>+223</b>
有形固定資産	5,069	4,905	▲164
無形固定資産	550	468	▲82
投資その他資産	3,866	4,336	+470
<b>資産合計</b>	<b>20,660</b>	<b>20,759</b>	<b>+98</b>

**棚卸資産 ▲279百万円**  
 ・商品及び製品 ▲96百万円  
 ・仕掛品 ▲71百万円  
 ・原材料及び貯蔵品 ▲111百万円

※電子記録債権を含む

<b>流動負債</b>	<b>6,682</b>	<b>6,407</b>	<b>▲274</b>
支払手形及び買掛金※	2,204	2,132	▲72
短期借入金	2,898	2,863	▲35
<b>固定負債</b>	<b>2,120</b>	<b>2,197</b>	<b>+77</b>
長期借入金	572	456	▲116
<b>負債合計</b>	<b>8,802</b>	<b>8,605</b>	<b>▲196</b>
<b>純資産合計</b>	<b>11,858</b>	<b>12,154</b>	<b>+295</b>

**有利子負債 ▲151百万円**  
 ・短期借入金 ▲35百万円  
 ・長期借入金 ▲116百万円

⇒自己資本比率 **58.5%**  
 (+1.2ポイント)

※電子記録債務を含む

# 要約キャッシュ・フロー計算書

【2026/3期 上期】

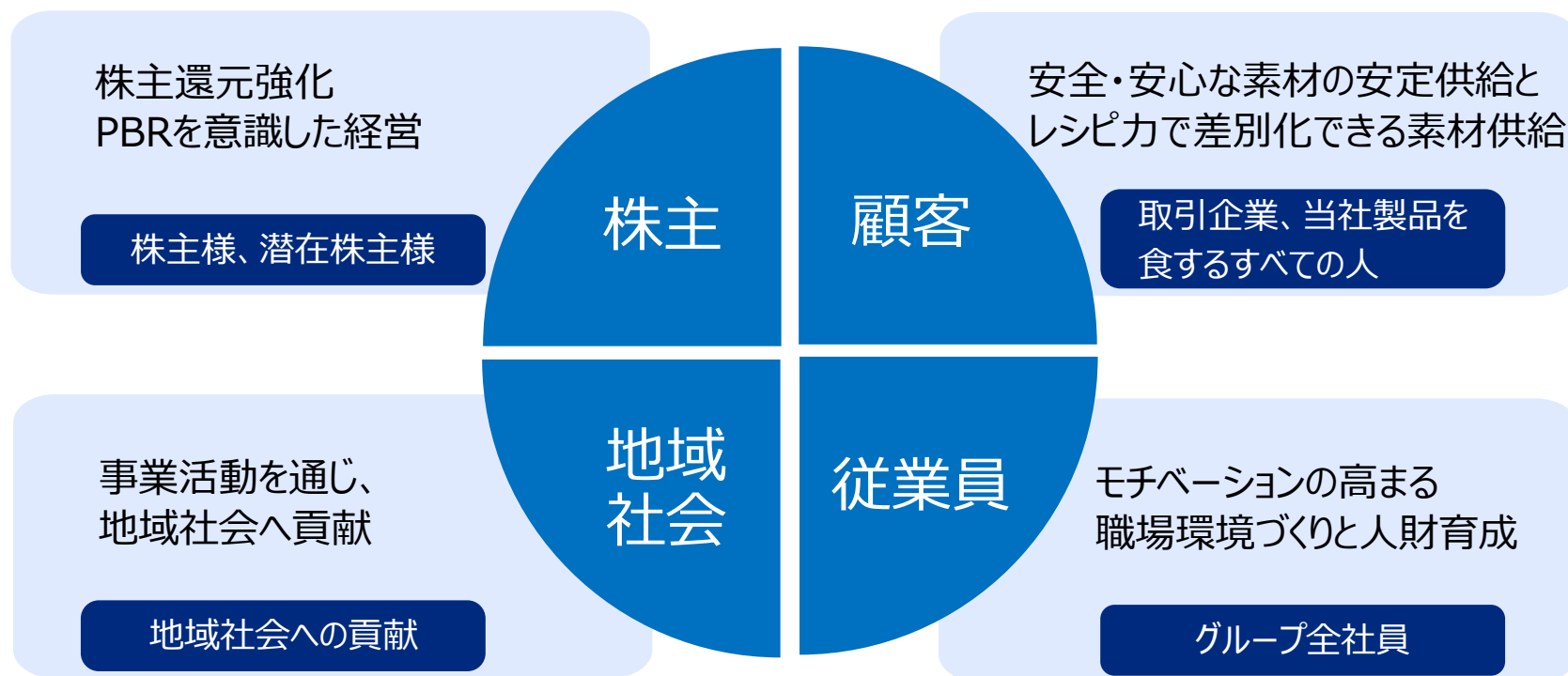
(単位：百万円)

	2025/3 上期	2026/3 上期
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	<b>293</b>	<b>529</b>
税金等調整前中間純利益	411	272
減価償却費	416	379
売上債権の増減額（▲は増加）	444	▲217
棚卸資産の増減額（▲は増加）	61	266
仕入債務の増減額（▲は減少）	▲536	▲89
法人税等の支払額	▲175	▲147
<b>投資キャッシュ・フロー</b>	<b>▲658</b>	<b>▲252</b>
有形固定資産の取得による支出	▲142	▲253
<b>財務キャッシュ・フロー</b>	<b>▲146</b>	<b>▲344</b>
有利子負債の純増減額（▲は減少）	46	▲151
配当金の支払額	▲170	▲170
<b>現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>▲456</b>	<b>▲90</b>
<b>現金及び現金同等物の中間期末残高</b>	<b>2,977</b>	<b>2,925</b>

## Ⅱ 重点施策の進捗状況



100年企業に向けた強固な基盤構築



より良いものを作り、顧客信頼度を向上させ、  
収益を伸ばすことで株主様、従業員、地域社会への還元を増やす

## 基本戦略

### グループ経営力強化

- ◆ 単体経営からの脱却
- ◆ 子会社の管理強化

### 自社商材拡販

- ◆ 開発強化
- ◆ 提案営業強化

### 海外市場開拓

- ◆ 東南アジア市場
- ◆ 東アジア市場

\* 営業キャッシュフローの最大化を目指す

成長投資資金の確保と還元強化

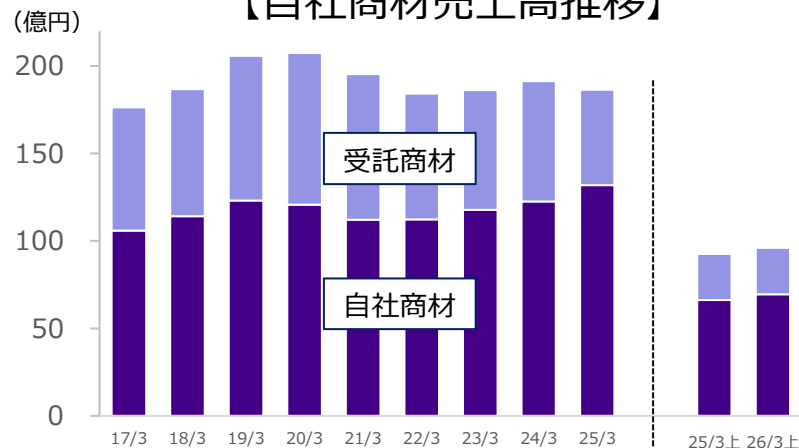
注\*) 簡易営業キャッシュフロー : 営業利益 + 減価償却費  
( EBITDA )

当面の対応強化

海外事業の収益貢献化

# 基本戦略の進捗状況

【自社商材売上高推移】



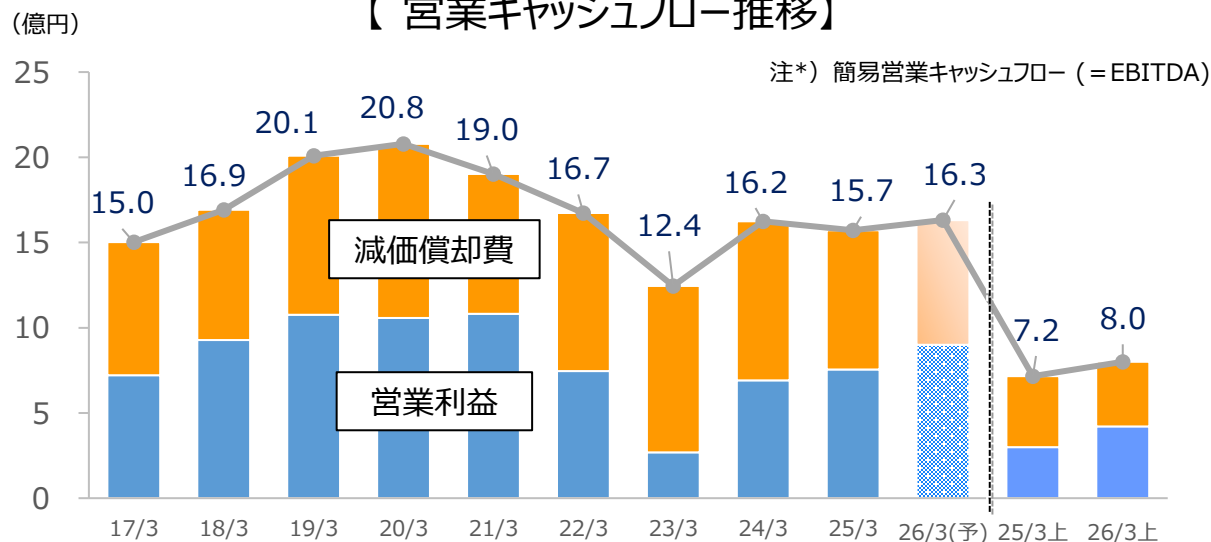
【海外市場向け売上高推移】

(単位：百万円)

	20/3*1	21/3*1	22/3	23/3	24/3	25/3	25/3 上期*2	26/3 上期
海外売上高	1,403	1,304	1,338	1,520	1,795	656	419	217
海外売上比率	6.8%	7.2%	7.3%	8.2%	9.4%	3.5%	4.5%	2.3%
海外子会社	1,342	1,281	1,315	1,496	1,767	632	404	203
輸出	61	23	23	24	27	24	15	14

(注\*1) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値  
 (注\*2) 龍和食品は、25/3期2Qから連結除外

【\*営業キャッシュフロー推移】



## 今期の重点施策

### 懸念材料

(期初想定)

米国関税政策に起因した世界経済への影響・不確実性の高まり

- 国内外の異常気象による農産物価格への影響（原材料費上昇）
- 食品の値上げに伴う消費者心理への影響（販売量の減少）
- 鶏卵需給動向と価格高騰（足元、高止まりの状況）



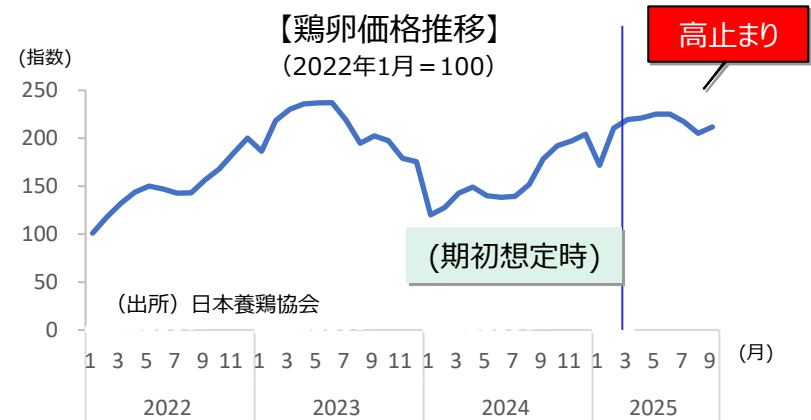
原材料価格は、  
期初想定 of 懸念事項が顕在化！

## 今期の重点施策

高騰する原材料費に対応した価格転嫁（対象製品個別に対応）

中国事業の再構築に伴う海外戦略の見直しで、ベトナム事業の黒字化達成

新自社商材の開発推進と提案営業による拡販強化

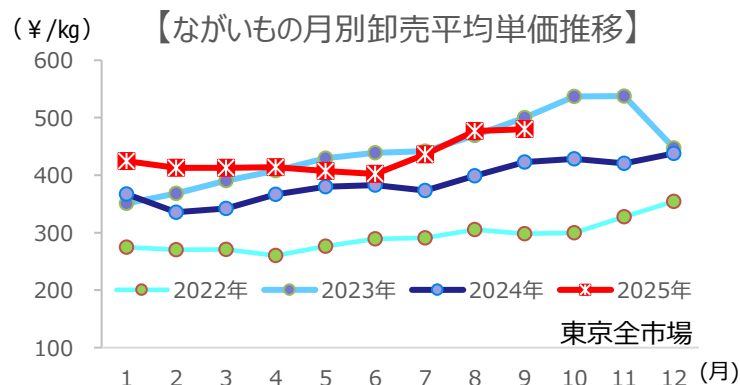
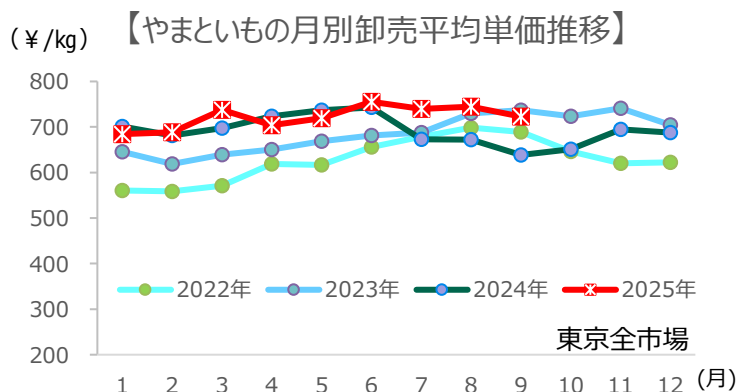


# 重点施策の進捗状況

## 今期の重点施策

### ① 高騰する原材料費に対応した価格転嫁（対象製品個別に対応）

- ➡ 主要自社商材の一部で天産物原料価格が高騰、利益率圧迫要因  
取引先様との価格改定に向け、ご理解をいただけるように順次交渉を進めている



### ② 新規自社商材の開発推進と提案営業による拡販強化

- ➡ 上期の新規商材上市数は28品であり前期比10品減だが、売上高貢献度は前年同期比の2倍
- ➡ 各種展示会出展を最大限活用し、レシピ提案等を積極的に進めた結果、新規採用件数が増加

# 海外事業の進捗状況

## 今期の重点施策

### ③ 中国事業の再構築に伴う海外戦略の見直しで、ベトナム事業の黒字化

#### 中国事業

→ 福州仙波を清算し、上海に貿易販売子会社を新設  
ベトナム事業との連携でシナジーを発揚させ、海外事業全体の収益改善に取り組む

#### ベトナム事業

→ 生産設備を増強し、海外事業の生産拠点としての生産基盤を強化  
(STVC\*に、2,280千USD (約3億5千万円) の増資を実行)

#### 【海外事業収益】

(単位：百万円)

	24/3期	25/3期	26/3期 計画	25/3期 上期	26/3期 上期
中国事業					
売上高	2,628	(※1) 131	128	(※1) 53	39
営業利益	10	▲33	▲19	▲7	▲2
ベトナム事業					
売上高(※2)	256	289	563	140	163
営業利益	▲50	▲79	35	▲38	▲8
【為替レート】					
(¥/元)	19.82	21.02	20.70	21.05	20.47
(¥/VND)	0.006022	0.006187	0.006038	0.006278	0.005895

#### 【海外事業従業員】

(単位：人)

	従業員数 (臨時雇用者除く)		出向者	
	24/12 末	25/9 末	24/12 末	25/9 末
SEMBA-NFC	5	7	ベトナム事業	
STVC*	49	47	6	7

STVC\* : SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED

(※1) 龍和食品は、連結除外に伴い、25/3期の収益予想ならびに実績に含めず

(※2) 連結グループ内取引分は、相殺消去につき売上高実績に含めず

## 海外事業の進捗状況

### 中国事業

上海に貿易販売会社「**上海永仙研食品有限公司**」を5月に設立（100%出資）



品揃えとレシピ提案強化で、カaramel市場を切口に新たな需要開拓へ

今期は、既存顧客への供給責任を果たしつつも、  
適正価格への改定交渉を順次進めていく

（福州仙波は会社清算に向け手続き中）

### ベトナム事業

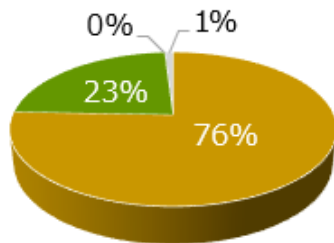
STVCは、海外市場の主幹生産拠点と位置づけ、東南アジア・東アジア向け輸出販売を拡充

（STVC出荷金額ベース）

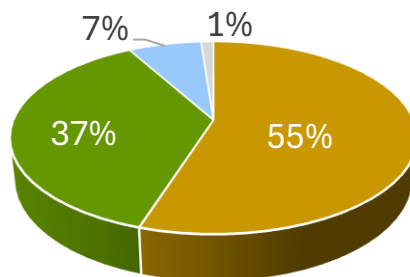
#### 【製品区分別構成】

出荷額は前期実績比、約80%増を計画

【2025/3期実績】



【2026/3期計画】

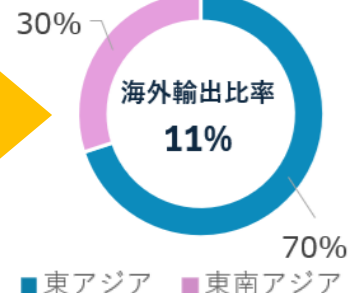
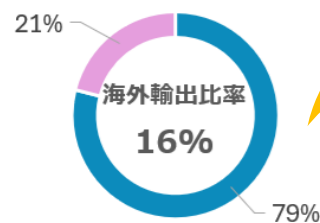


■ カaramel製品 ■ 乾燥製品（SD） ■ 組立製品（ブレンド） ■ その他加工

#### 【ベトナム国外向け輸出状況】

【2026/3期計画】

【2025/3期実績】



輸出比率は減少も、  
金額ベースでは約1.5倍を計画

### Ⅲ 2026/3期の業績予想



# 製品区分別売上高予想

【2026/3期予想】

売上高および製品区分別売上高は、期初予想を据え置く

- ✓カaramel製品は、提案営業推進で国内デザート向け需要増加を計画
- ✓乾燥製品類は、粉末茶が堅調、即席麺向け製品等の需要増加を見込む
- ✓組立製品類は、ヘルスケア商材受託加工が底打ちも、スープ類の需要堅調
- ✓冷凍製品は、国内冷凍和菓子および冷凍山芋は堅調

(単位：百万円)

	2025/3期			2026/3期予想			
	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)	伸び率
売上高	9,257	9,443	18,701	<b>9,594</b>	<b>10,106</b>	<b>19,700</b>	<b>+5.3%</b>
カaramel製品	2,222	2,295	4,518	2,199	2,601	4,800	+6.2%
乾燥製品類	3,369	3,584	6,953	3,511	3,839	7,350	+5.7%
組立製品類	1,502	1,737	3,240	1,619	1,681	3,300	+1.9%
冷凍製品	1,632	1,222	2,854	1,664	1,336	3,000	+5.1%
その他	529	604	1,133	598	652	1,250	+10.3%

## 経常利益と当期純利益を減額修正

✓ 営業利益は、上期計画を上回るが、

下期予想は主力商材の原材料高騰を主因に減額も、通期では期初予想を据え置く

✓ 経常利益は、為替差損の計上を見込み、期初予想を減額、前期比では0.5%増益を予想

(単位：百万円、円)

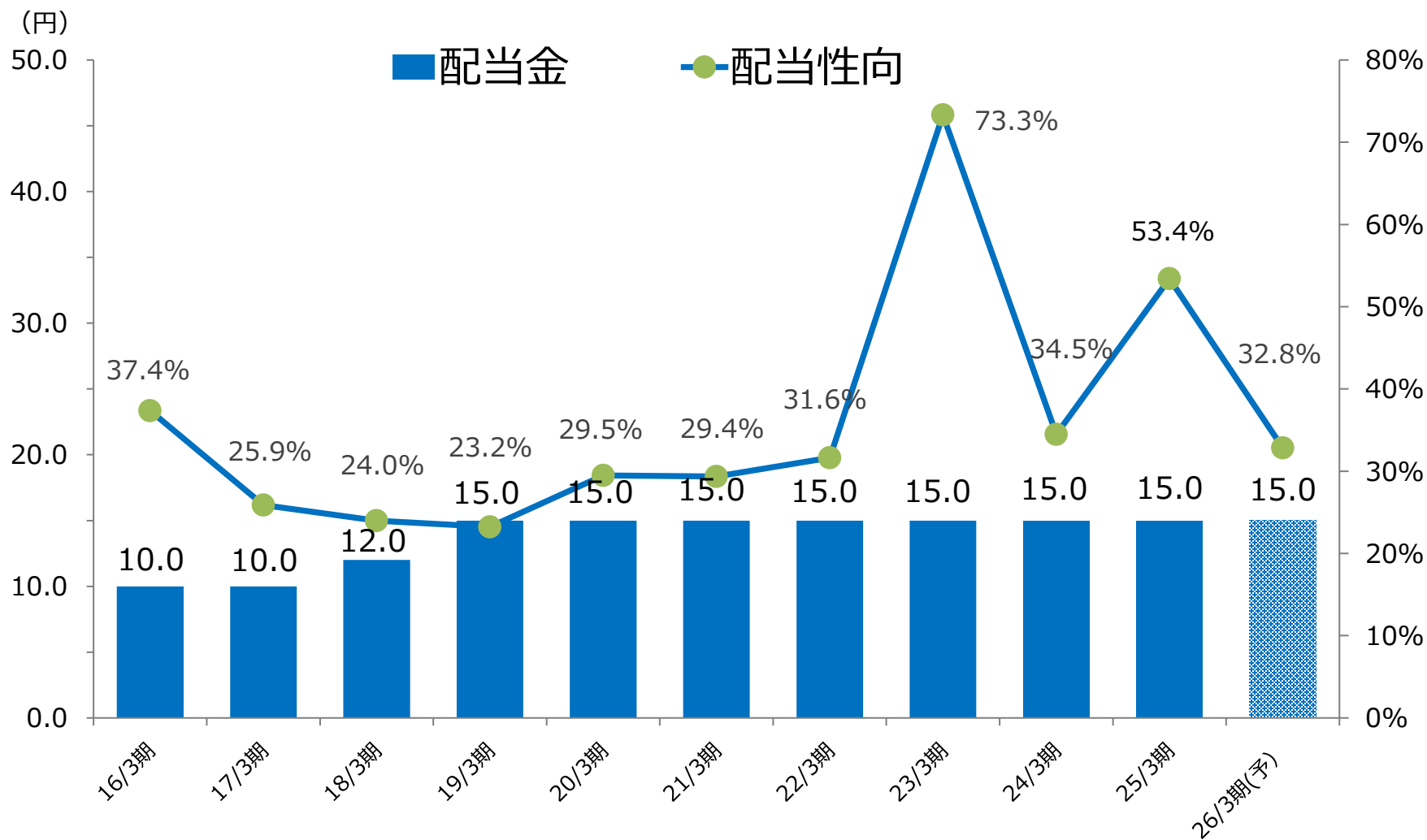
	2025/3期			2026/3期予想				
	上期	下期	通期	上期	下期(予)	通期(予)	伸び率	従来予想
売上高	9,257	9,443	18,701	9,594	10,106	19,700	+5.3%	19,700
営業利益	299	456	755	421	479	900	+19.1%	900
経常利益	405	411	816	272	548	820	+0.5%	900
親会社株主に帰属する 当期純利益	261	58	319	164	356	520	+62.7%	600
1株純利益	22.98	5.10	28.08	14.45	31.23	45.68	-	52.71
設備投資額			741			676		
減価償却費			817			731		
研究開発費			300			348		

〈為替レート前提〉 25/3期：21.5円/元、155円/ドル、 26/3期(予)：20.7円/元、150円/ドル

# 配当金予想

15円/株を据え置く

【2026/3期予想】



---

---

## 參考資料

---

---

- 創業商材。国内シェアトップ
- 高付加価値のデザート向け新製品開発に注力
- 海外需要の取り込みで成長を目指す

## 着色用

- ・清涼飲料やアルコール飲料等の飲料向け
- ・ソースやタレ類、カレー等に幅広い需要

## 一般食品用

- ・プリン等のデザート向けやココ味調味料向けが主力
- ・高級洋菓子やアイスクリーム向け需要が拡大

### 一般食品向け製品例

カaramelソース  
(ボトル品) (顆粒品)



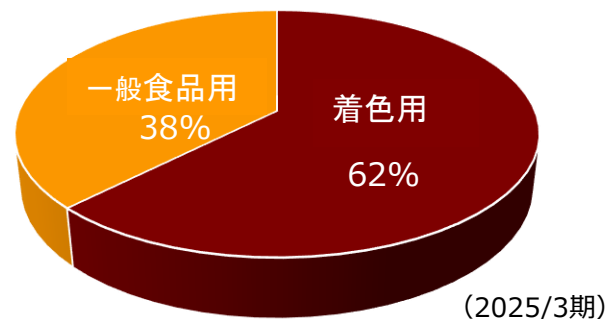
カaramelソース  
(タブレット)



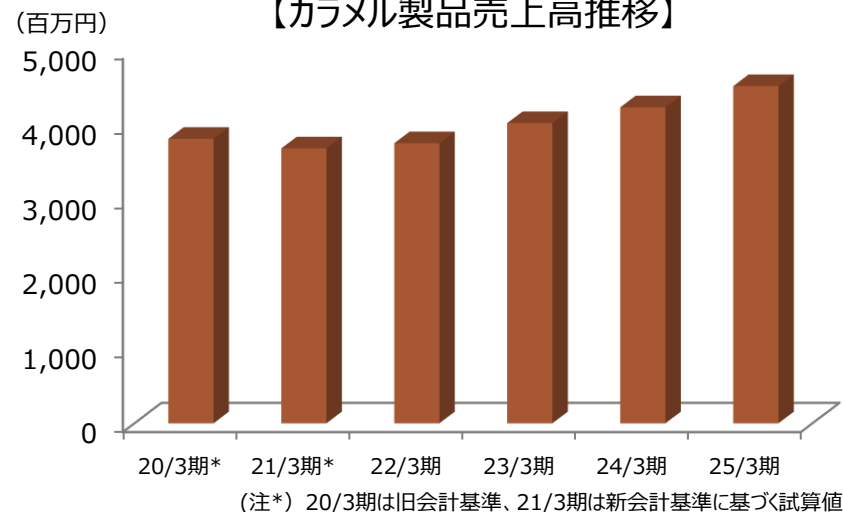
キャンディー・チップ  
(顆粒品)



【用途別カaramel製品売上構成】



【カaramel製品売上高推移】



- 売上高の約80%は B to B、粉末製品と凍結乾燥製品を手掛ける
- 粉末製品は、粉末茶や粉末調味料素材（醤油や味噌）などを販売
- 凍結乾燥製品は、野菜ブロックや粉末山芋が主力

## 当社の主力製造技術

## 粉末製品

## スプレードライ(SD)技術

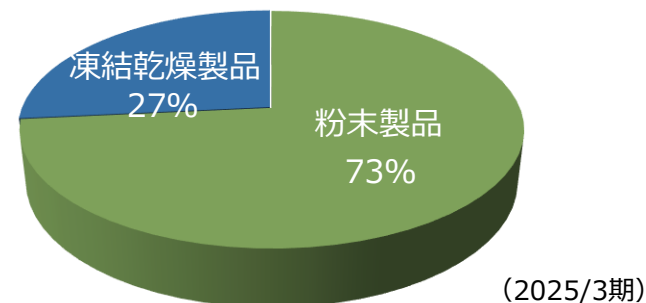
液状化した原料を霧状にし、加熱空気で瞬間的に粉末化する乾燥技術。乾燥工程が短く、大量生産に威力を発揮し、高品質で、低コストな製品の安定供給が可能。

## 凍結乾燥製品

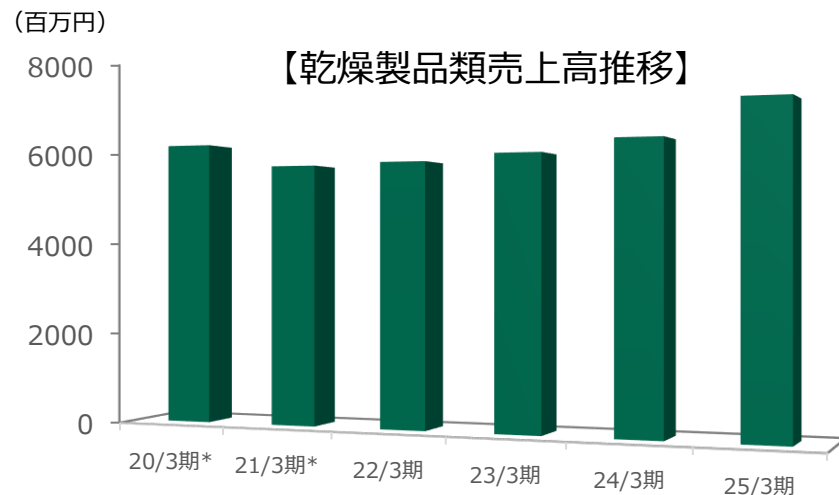
## フリーズドライ(FD)技術

凍結させた原料を真空状態のもと、低温で乾燥させる技術。素材の色、味、香り、栄養をそこなく乾燥することが可能。保存性や簡便性に加えて、機能性が高い乾燥方法。

【乾燥製品類売上構成】



【乾燥製品類売上高推移】



(注\*) 20/3期は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

- 造粒製品とブレンド製品とも受託加工が中心
- 溶け易くななどの品質とおいしさの両方を追求、レシピ力を活かした提案営業に強み
- 23/3期からスポーツサプリが消費行動の変化等もあり受託が大きく落ち込む

## 造粒とは

粉末食品の「溶けにくい」、「流動性が悪い」、「吸湿性が強い」等を改善し、より使いやすい最終商品へ仕上げる。

## 造粒製品

スープ類、健康食品、スポーツ飲料、ココア等



## ブレンドとは

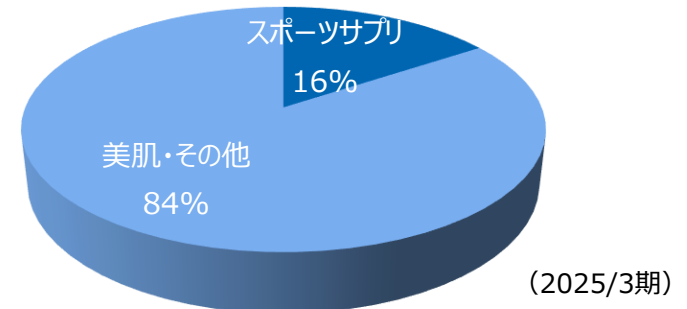
各種原料を混合し、原料の持ち味を活かした粉末状調味料やインスタント食品などを製造する。

## ブレンド製品

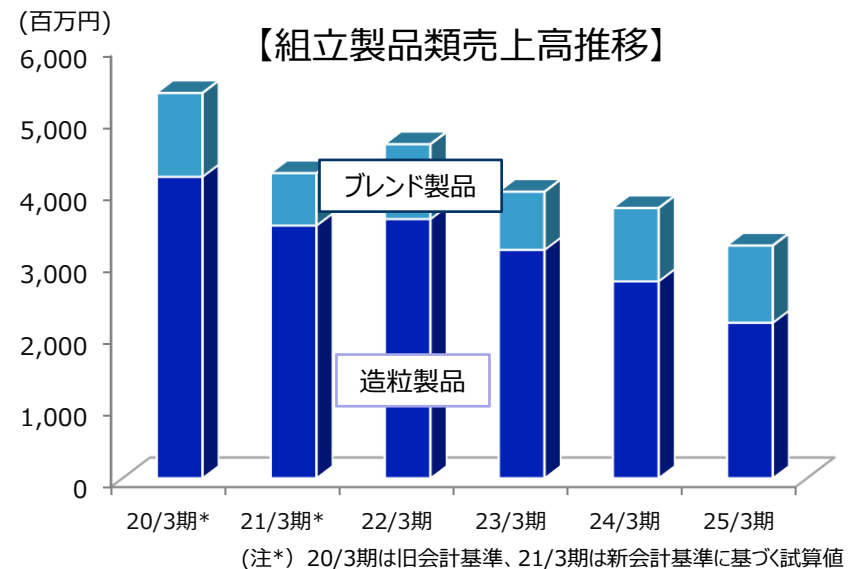
粉末ソース、粉末調味料、唐揚げ粉、みそ汁等



【ヘルスケア商材の売上構成】



【組立製品類売上高推移】



- 冷凍和菓子はメディケア市場向けを中心に、約50種類を販売
- 冷凍山芋は業務用・CVS向けが中心。取扱量は業界 2 位

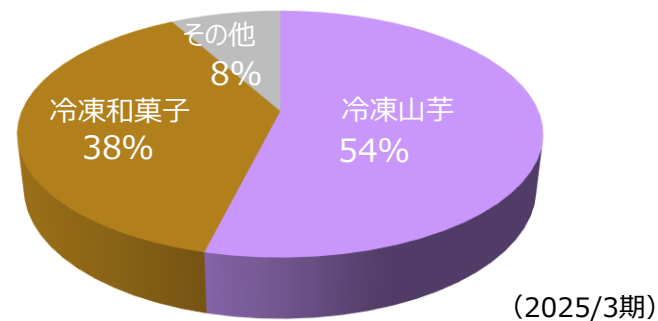
### 冷凍和菓子



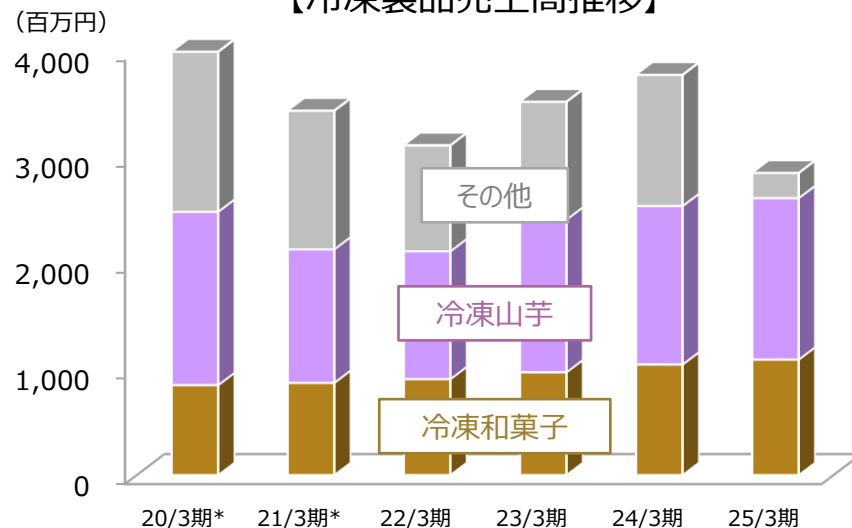
### 冷凍山芋



### 【冷凍製品売上高構成比】



### 【冷凍製品売上高推移】

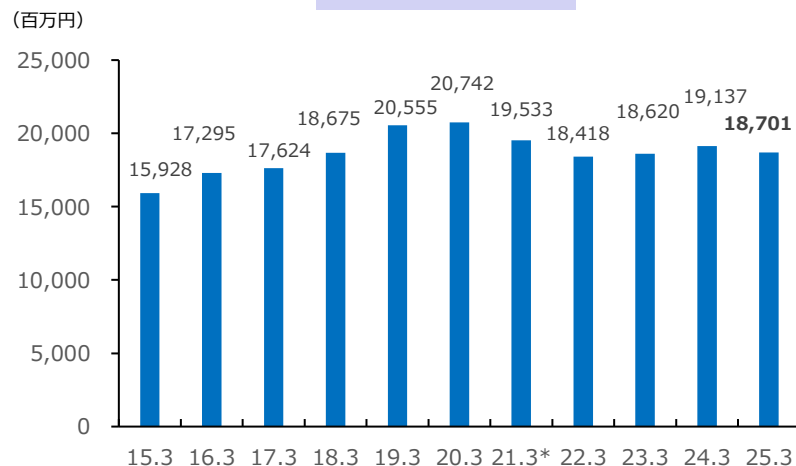


(注\*) 20/3期は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

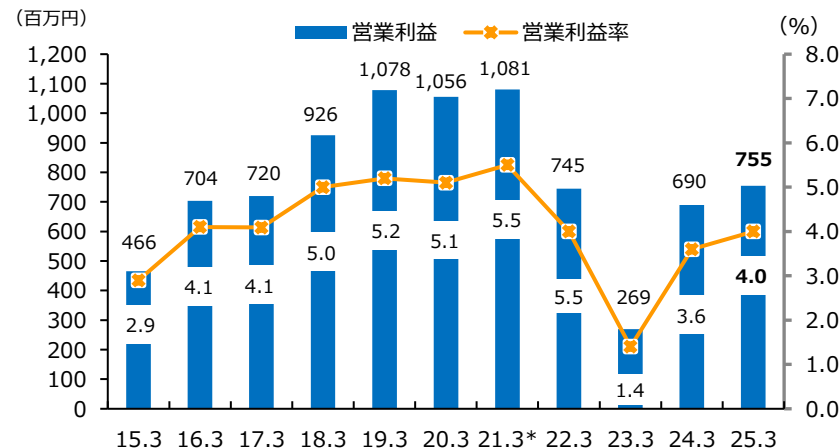


# 主要財務データ①

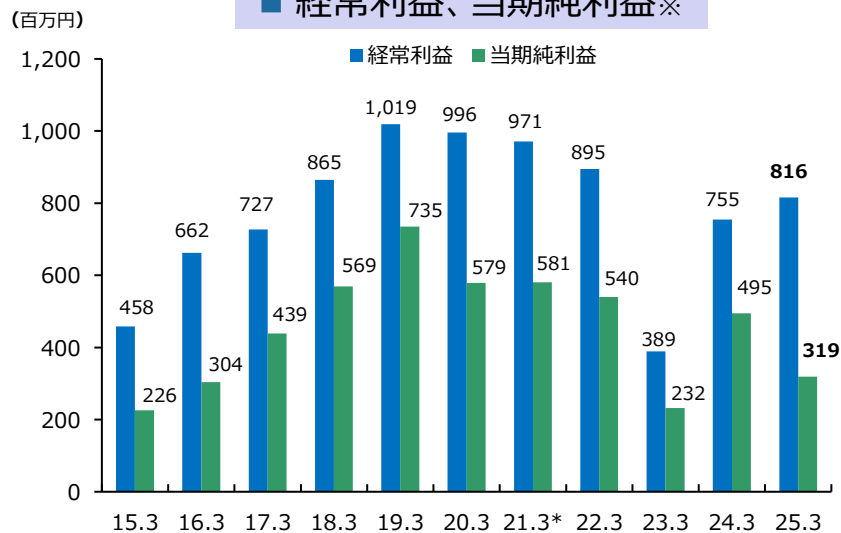
## 売上高



## 営業利益

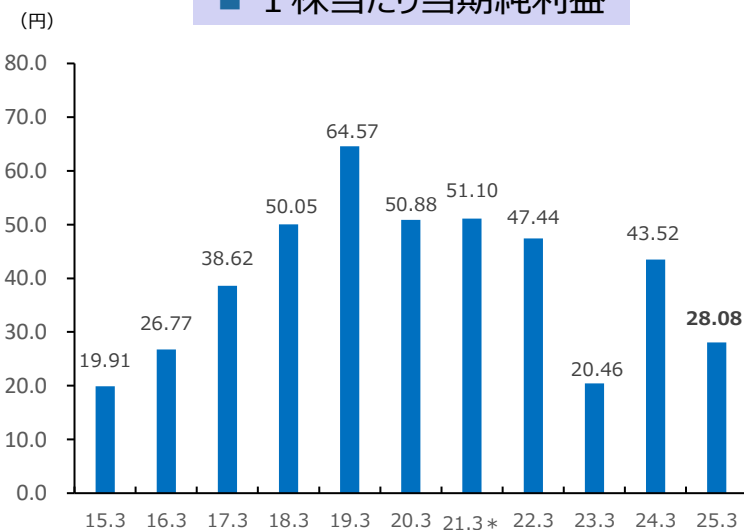


## 経常利益、当期純利益※



(注※) 親会社に帰属する当期純利益

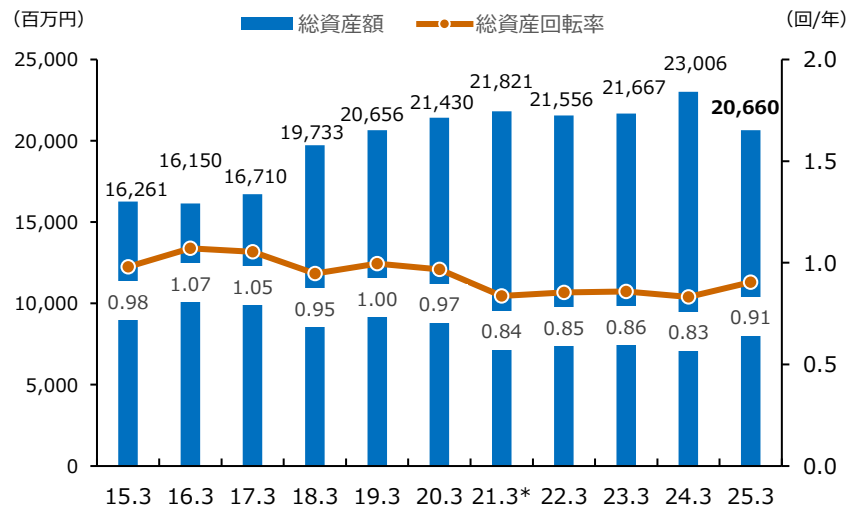
## 1株当たり当期純利益



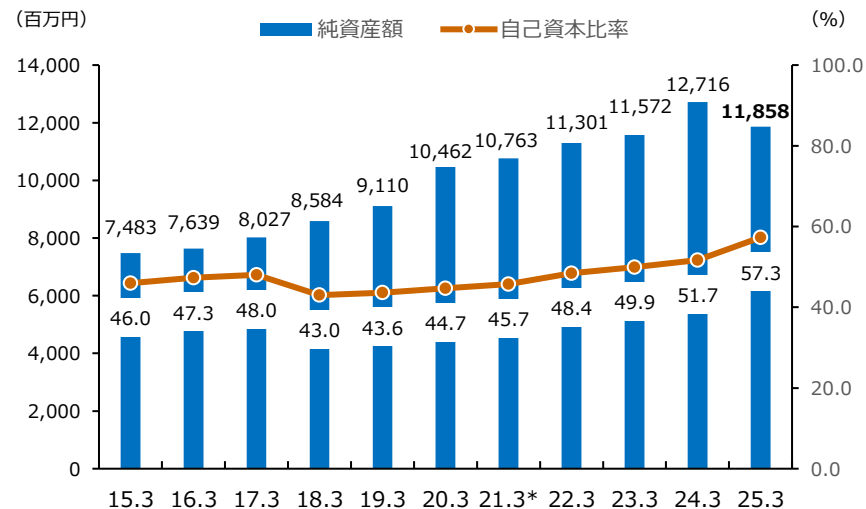
(注\*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

## 主要財務データ②

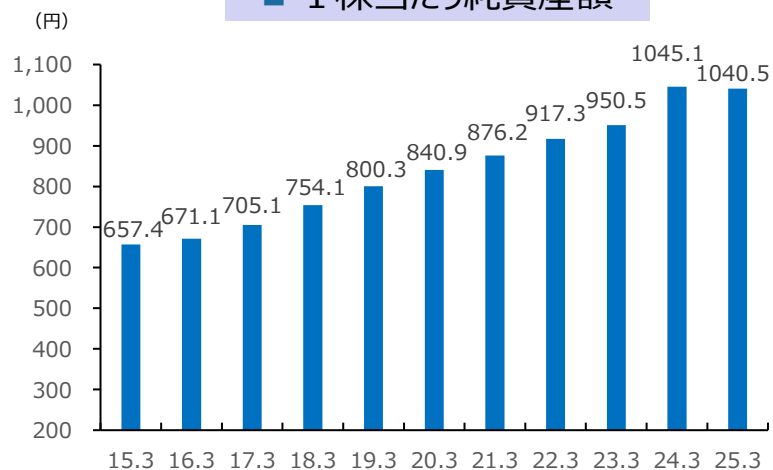
### ■ 総資産、総資産回転率



### ■ 純資産額、自己資本比率



### ■ 1株当たり純資産額



(注\*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

〈お問い合わせ先〉  
仙波糖化工業株式会社  
総務部 IR担当

TEL: 0285-82-2171

FAX: 0285-84-3283

E-Mail : [ir@sembatohka.co.jp](mailto:ir@sembatohka.co.jp)

当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.sembatohka.co.jp/>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。